

香港事務所だより

香港には、100年の歴史を持つレトロな2階建ての路面電車「トラム」があり、ゆったりと走行するため観光客にも大人気です。今年1月から3月にかけて、このトラムに期間限定で宮崎PRのラッピング広告を行い、代表的な観光地、農産物それに本県のロケーションなどを大々的に宣伝したところ、「いいね。可愛いね。」といった期待以上の反響がありました。

このようなPR活動に取り組んだのは、約4年前に当事務所を設置して以降、県産品は着実に香港に浸透し取引きも増えてきているにもかかわらず、「宮崎」自体の知名度はまだ不足しており、宮崎－香港直行便の搭乗率向上のためにもテコ入れ策が必要だとの思いがあったからです。



例えば、多くのスーパーで販売され、人気を集めている宮崎の甘藷（さつまいも）を購入しようとする時、おそらくパッケージから品質の良い美味しい「日本産の甘藷」として認知されているのでしょうかが、はたして生産地が日本のどこにあり、どのような県であるかは殆ど知られていないのが実態だと思います。

ここが我々の勝負どころの一つだと捉えています。こういった商品が自然豊かな環境に恵まれた宮崎の地で、温かい「ひなた」を浴びて育ったものだと知っていただければ、食や観光を通して更に本県のファンが増えるものと考えています。今後とも、このようなアピールにしっかり取り組みながら香港で輝いていきたいと思います。（香港事務所 高山）

大阪事務所レポート



大阪事務所は今年度より体制が変わり、関西を中心に、また時には四国などにも足をのばして県産品のPRと販路拡大に向けて活動しています。

その中で1月26日～28日までの3日間、大阪市北区にある天神橋筋商店街で『来て見て食べてみやざき県～みやざきからの贈り物～』という物産観光イベントに参加しました。ここは南北2.6kmにも及ぶ日本一長いアーケード商店街として有名で、約600店舗が軒を連ねています。

当センターからのブースでは漬物、飲料、焼酎そしてJA宮崎経済連と協力して完熟きんかん“たまたま”を販売しました。大阪の中でも「お客様の目が厳しい」と言われる商店街の中で予想以上の売上げがあり、県産品の魅力をあらためて実感するところとなりました。

また、会場では神話の古代衣装を着ての写真撮影、鵜戸神宮の運玉投げ体験、ひょっこりパレードそしてみやざき犬「むうちやん」の登場などもあり、宮崎を売り込む企画となりました。このように宮崎の魅力を売り込んでいきたいと考えています。（大阪事務所 上田）



センターニュース

Vol 54

Miyazaki Local Products and Trade Promotion Center Newspaper

阪急梅田駅みやざきKONNE

2月16日～27日までの12日間、阪急梅田駅2階中央改札内に期間限定のミニアンテナショップ『みやざきKONNE阪急梅田店』を出店しました。



黄色い看板が目を引く店舗ですが、それに加えてデジタルサイネージでも県産品を広告し集客に努めました。店内には約350アイテムを取り揃えたほか、「高千穂郷・椎葉山地域」の世界農業遺産への登録にちなんで地元の加工品の実演販売、関西では手に入りにくい焼酎の限定販売など6企業によるプロモーションも展開しました。



発行所

公益社団法人
宮崎県物産貿易振興センター
〒880-0804

宮崎市宮田町1番6号
TEL0985-38-9351
FAX0985-38-9354

平成29年3月24日発行

目次

阪急梅田駅イベント	1
食品展示商談会	1
取引あっせん	2
シンガポールフェア	2
台湾フェア	3
食品表示研修会	3
『み』の下マルシェ	3
香港事務所だより	4
大阪事務所レポート	4

スーパーマーケット・トレードショー

2月15日～17日の3日間、千葉市の幕張メッセで行われた国内最大規模の食品展示商談会「第51回スーパーマーケット・トレードショー2017」に宮崎県ブースを構え、「調味料」「畜産加工品」「お茶」「お菓子」などを販売する県内企業36社が出展しました。



昨年までの東京ビックサイトから会場を移し、全体で87,000人の来場者がある中、ブース正面には本格焼酎の一斗瓶を中心にして各企業の商品を並べ、県産品のラインナップを分かりやすくディスプレイしました。



各地の商品を掘り起こそうとするバイヤーとの商談も活発に行われ、新商品の提案や具体的な取引に向けての機会となりました。

センターでは今後ともこのような業界関係者に直接商品を紹介することができる展示商談会等への参加を通して、県産品の全国への発信を支援していきます。（企画課 高嶋）

商品取引あっせん

センターではこれまでアンテナショップの運営や物産展等への出展支援等に取り組んできましたが、今年度から小売りや問屋に対して当センターを通して商品供給していく「取引あっせん業務」の強化に取り組んでいます。その中では、お客様の元へ継続して商品を届けていくために中間流通業者を巻き込んだ仕組みづくりが求められるところであり、その第1弾として食品の大手問屋である国分九州（株）との連携に着手し、商談会とセミナーを開催しました。



国分九州との商談会

1月13日 25社が商談会に参加



食品流通セミナー

3月13日 マーケティング部長による講演

こういった取り組みを通して中間流通業者や問屋を活用した販路の形成・開拓を目指すとともに、センター自身の卸機能の充実を図っていくこととしています。（企画課 永峰）

ひなたフェアinシンガポール

2月7日～16日までの10日間、シンガポール伊勢丹スコット店において『みやざきひなたフェアinシンガポール』を開催しました。県内からは12社が参加し、「干し椎茸入りおにぎり」「黒ニンニクを使用した唐揚げ」「梅入り黒糖蒸しパン」などの実演販売が行われたほか、シンガポールでは珍しい竹炭関連商品や乳酸菌入り甘酒を扱う企業の出展もあり、バラエティーに富んだ品揃えで大変賑やかなフェアとなりました。

試飲試食を積極的に働き掛ける中、その匂いや調理パフォーマンスで多くのお客様から注目を集め、行列ができる場面もありました。当センターもKONNEブースを出展し、バレンタインデー向けに考案した県内産アイスクリームと菓子をコラボさせた「みやざきひなたパフェ」を販売しました。



輸出に関しては、甘味料や色素などの食品添加物に関する規制等で輸出できない商品もありますが、出店企業の皆さまからは「今回のフェアをきっかけに、今後もシンガポールで販売活動を行っていきたい」など積極的な意見もあり、次回に繋がる実りのあるフェアになりました。（総務貿易課 上原）



宮崎フェアin台湾

3月3日～5日の3日間、台湾台中市の高級スーパー『裕毛屋（ゆうもうや）』の公益店・崇徳店の2店舗において第4回となる宮崎フェアを開催しました。加工品、調味料、飲料、青果物などを取り扱う県内企業6社・団体が参加し、約40品目の商品を販売しました。

工夫を凝らした試飲試食のほか、人目を引くかぶりものでPRする企業もあり、一体となって会場を盛り上げました。また、県産品の購入を通してその良さを知ってもらうため、300元（約1,050円）以上お買上の方を対象とした抽選会も実施しました。

このフェアも回数を重ね徐々に定着してきた感がありますが、今後も台湾へ宮崎の美味しさを届ける機会となるよう工夫していきたいと思います。

（総務貿易課 柏木）



食品表示研修会

3月7日、宮崎観光ホテルにおいて食品表示研修会を開催しました。講師には毎年お迎えしている生活品質科学研究所（株）の福地先生をお呼びし、食品表示の一元化について講演いただきました。



食品の表示に関するルールは以前3つの法律で定められていましたが、より分かりやすい制度とするため昨年4月に「食品表示法」が作られ、様々なきまりが“食品表示基準”として定めされました。（詳細については、同封のペーパーを参照）

今回の研修では、変更点を中心に具体的な表示の仕方が説明されたほか、あらたに食品の原料原産地名表示制度の導入に向けた検討が行われている点などについてもお話をありました。

センターとしても消費者庁等の動向を注視しながら、食品の適正表示に向けて可能な限り支援していきたいと考えています。（営業課 西山）

『み』の下マルシェ展開中

みやざき物産館KONNEでは店舗外側の『み』の看板下のスペースを利用して、イベント販売することができます。

現在、宮崎市のフェニックスリゾート（株）【シーガイアカレー】、延岡市のブルーオウル【低糖質パン】、美郷町の美郷ノ蔵【地元野菜・加工品】、小林市の加藤牧場【トルティーヤ チーズ】、そして日向市の和農園【トマト】の5社に曜日を決めて出展していただいている。



和農園



ブルーオウル

多くのお客様に足を運んでいただくため、県庁の各職場には月間出展予定表を配布しています。定期的又は短期的な活用での出展が可能ですので、商品の販売・PRに活用ください。随時、申込みを受け付けていますので、ご希望の方は営業課までお問い合わせください。（営業課 前田）